♪「お二人でのトーク」～文化ボランティアとまちづくりの接点を探る～

今泉：古賀さん、先ほどの感想などなんでもいいのですが、いかがでしたか。

古賀：楽しく聞かせていただきました。今泉さんとお会いするのは今日初めてでしたが、気さくな方でとても安心いたしました。ある人から今泉さんは「まちづくりの芸人」だと紹介を受けたことがありましたが、期待通りの、いきいきとした楽しい話で大変楽しませていただきました。すごく印象深かったのは、まちづくりに関する考え方が私と共通していたのでホッとしました。先程お話の中でまちづくりとは、地域が将来このようになればいいな、という想いがありその想いを実現するために勉強するだけでなく行動力が大切だとうことにすごく共感できました。まちづくりの活動を起こしていくヒントを探しながらお話を伺っていました。視点を変えて地域をみる、例えば地元の人が意外と気づかないものも、よそ者が新しい見方で気づくことがあるということですね。通常よそ者とはその地域に住んでいる人以外をいいます。ものの見方、考え方が他の人と少し違う視点をもっているアーティストが招かれ、まちづくりの活動に入っていくパターンが結構あると思います。今日お集まりの文化ボランティア活動に関わっている方々の中にもアーティストがいるかもしれません。この場合アーティストとはいわないにしても文化に関わる活動をしている人は、文化の語源は「耕す」ことですから、なんでも耕している方でユニークな視点をしっかりもっている方だと思うのです。だからまちづくりに於いてよそ者の視点が重要であるということは文化活動に関わっているボランティアも大いに活躍できる可能性があると考えながら聞いていました。

今泉：古賀さんのお話を聞いて「つなぎ役」という言葉が出てきましたが、先程の話、アーティストがいても地域とのかかわりが無い場合そこに「つなぎ役」が入り、うまくまちづくりに繋いであげることが必要だというところに非常に感銘を受けました。全くその通りだと思います。そこに誰かが入らないといけない、入る人が誰なのかが重要なことでみなさん方が入る、古賀さんのようなプロの方や我々みたいなまちづくりの者が中に入り間をちょっとつなぐということです。二人の共通点は役所にいたことです。彼女は福岡市役所で、私は福岡市民に水を送っている久山町の職員でした。30 歳位まで二人とも役所の職員でした。というところから私達も、外ものだからこそ見えるところもありますので、うまく活かして我々を呼んでいただきワークショップをするだけで、すごい案がでてくるのではないかと思います。その中から皆さんのやりたい事が芽生え、それを我々も行政に繋ぐ、また地域に繋ぐ動きをすることにより活性化するのかなという感じがします。

　まちづくりには人によりいろいろ定義がありますが、古賀さんの定義を聞いてああそうだなと思いました。私はこういう考え方を持っています。まちづくりの基本は人づくりだ

と思います。人の気持ちが変わらなければ町が動きません。みなさん方も人の気持ちが変わらないと私は「これでいいや」と思いませんか。そう思ったらそれまでですよね。その人はそれでいいかもしれませんが、その人の子どもさんお孫さん曾孫さん達が何も変わらない状況にあったと考えたら、今我々がなんとかしておきたいと思うでしょう。それには経済的なもの、お金は重要です。視察にみえたら 1,000 円ぐらい頂き活動費に当てる、そういうことも必要だと思います。金儲けの前に人の気持ちが変わるということで、「ああよかったね」ということになる「心儲け」という視点も必要だと思います。古賀さんにちょっとお尋ねします。先ほどのつなぎ役のことですが、我々がどのようにして「つなぎ役」を作っていったらいいか少しアドバイスして頂きたいと思います。

古賀：文化ボランティアの活動の①，②，③とある部分の（古賀レジメ　資料Ⅱ 参照）①から②にどうやって進んでいくか、②から③にどのようにして移っていくか、その後押しをどのようにするかということです。その答えを私がここでズバッと言える位ならこの点は既に解決していると思います。ただ一つ言えることは今泉さんのお話の中にあったと思いますが、例えば観光ボランティアが案内している大切な絵画が、時が経てば見せる事が出来なくなってしまうほど薄くなっていると思ったとき、解説を済ませたら終わりではなく、問題に気づいているのだから、これをどうする、どうしたら保存できるか、などの解決策を自分達で考え、出来ないことは行政と話をする行動に移せるか否かだと思います。文化で耕された方ならきっと「気づき」がある筈です。だから気づいていることを一歩前に出す行動がとれるかという部分にキーポイントがあるような気がします。

　もう一つ言わせていただくと、先ず分科会の施設系に関わっている文化ボランティアの方は活動を始めるきっかけが施設側、行政側から募集があって参加している方が多いと思います。そういうことでなかなか自立した組織になっていかないし、自立していくことに時間がかかっています。一方まちづくり系の方は最初から自分で問題意識を持ってやっているという、生まれ方の違いがあるような気がします。施設側行政側の募集で集まった方々が自分達の「気づき」をどのように施設側行政側に疑問として提案できるか、またその疑問を自分達でなんとか解決しようという話にもっていく、そのような人が一人でも二人でも出てくるのかというところがポイントになると思います。その辺のヒントが今日の分科会事例報告のなかで聞けるといいなと期待しているところです。

今泉：まちづくり系分科会の人たちに対してなにかアドバイスがあればお願いします。

古賀：まちづくり系に関して私は、どのような思いで活動されているのか、さらに進めていくために何が必要か、というところを是非お聞きしたいと思っています。それは施設系のボランティアに関わっている方にとっても将来の姿なのではないかと思います。いまの活動の中身と共にこれから先どのような展開を考えているのか、それに必要なことは何か

を是非お伺いし学びたいと思っています。

今泉：ありがとうございました。結論が出ているような感じもしますが。施設系の応募で参加している人達がどのような意識を持てばもっと活動に楽しみが湧きやる気が出るのか、今までの話の中にもヒントがあったと思います。行政や施設系のご担当の方に、このような仕掛けをすれば参加者一人一人の意欲は高まりますよ、というアドバイスができる内容が本日の分科会で出てくればいいなと思います。担当が替れば元に戻る、俺はもう関係ない、という形で終わる方が多い中でやはり担当が替わってもしっかり応援してくれるそういう方になっていただければと思います。それとまちづくり系の行政の方はボランティアをどう引き込むか、「入りませんか」だけでなく、きちんとこういうことだからあなたの力が必要なのです、そういうところが見えてくればいいなと思います。

是非この後の分科会では発表だけでなく意見交換もしていただきたいと思います。一般的にその場だけで終わってしまうフォーラムも多いのですがこの出会いをきっかけにして、沢山交流していただき、お互いに励まし合いレベルアップ出来ればいいなと思っています。今回のフォーラムも重要ですが、次のフォーラムの間に何がやれたかも重要で、次のフォーラムでそれを報告する、そういうことになればいいなと思っています。